

# 自己評価結果公表シート

報徳幼稚園

## 1、本園の教育目標

本学園では、幼児期に子どもたちが経験する様々な活動や集団生活を通して、子どもたちが自然に基本的な生活習慣や人間関係の基礎を学ぶという教育方針を大切にしている。幼児期の子どもたちが秘めている可能性は無限大であり、子どもたちの自然で自由な発想を側面から援助し、自発的に物事に取り組む意欲と考える力を育てていきたいと考えている。

我々の目指す幼児教育とは、

- 一、一人ひとりの特徴をしっかり見つめ、長所を伸ばす工夫を考える。
- 一、幼児のもつ無限の可能性を引き出し、人間形成の健やかな成長を図る。
- 一、21世紀の国際社会に羽ばたける感性を育む。
- 一、保護者と共に力を合わせ、子どもたちの夢を満たす教育環境づくりを工夫する。

というものであり、学園の設立以来「幼児教育」の理念・理想として受け継がれ、発展を遂げてきた。

特に、本園においては、より具体的な理想の「子ども像」として

- 一、明るく健康でたくましい子ども
- 一、思いやりのある子ども
- 一、心豊かな感性をもつ子ども
- 一、よく見よく聞きよく考え行動のできる子
- 一、交通安全に気をつける子
- 一、あいさつのできる子

を掲げ、日々の保育における指針としている。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

昨年度及び今年度についての園児募集活動に関しては、特に三歳児については、定員一杯にならずに全体的に園児減少という結果になった。

また、枚方市全体で見た場合、少子化の影響で、例えば三年後の三歳児人口は現在と比べて約五百人の減少となる見込みであり、本園のみならず、私学の幼稚園を取巻く環境は一層の厳しさを増している。まさに「選ばれなければ『生きのこり』を図れない」という、淘汰の時代が到来しているといえる。

つまるところ、いかに子どもたちやその保護者に「魅力のある」メニューを幼稚園として提示できるかどうかという、古くて新しい課題を着実に実行し、望まれる「価値」の提供が出来るかどうか、園存続・発展のための大きな鍵となってくる。

教育環境設備の充実を図る面においては、全保育室の空調(冷房)設備の導入、保育室やホールを中心にした内装工事などを実施して、清潔で美しい保育環境の保持を図ってきた。

一方、子育て支援としての「預かり保育」については、その重要性はますます高まっており、大阪府の提唱する「スマイル・チャイルド事業」を推し進めるため、「預かり保育時間」の早朝並びに夕方  
の時間延長を実施しており、今年度も引き続き、午前7時30分から午後6時30分までの「1日11時  
間の保育」を実践している。

長期休暇中(夏・冬・春休み期間中)の「預かり保育」についても、実施する時間帯や日数に関し  
て、保護者の意向を汲み上げつつ、更なる充実を図っていきたいと考えている。

また、「預かり保育」の充実に関連して、大阪府からは、平成 27 年度 4 月より開始する見込みの  
「子ども・子育て支援新制度」における「認定子ども園」への移行への打診を受けているところであ  
る。そこで、本園としても当該制度の趣旨に鑑み、制度の概要が明らかになってきた時点において、  
移行するかどうか、移行するとすればどのような類型の「認定子ども園」へ移行するのかなどの点  
も含めて、大きな決断をしなければならないと考えている。来年度(平成 26 年度)の早いうちには一  
定の方向性を固める予定である。

一方で、本園を地域の保護者・住民に広く知っていただき、理解していただくために始まって、好  
評をいただいている「未就園児体験教室(ほうとくワンダースペース)」については、上記「認定子ども  
園」への移行の件とは別に、内容面・運用面とも更に充実・発展させていき、地域における「子育て  
支援」の拠点としての一翼を担うとともに、本園の「幼児教育」の場としての「特色」をしっかりと訴えて  
いき、園児募集にも繋げていきたいと考えている。

また、情報提供手段としてのホームページについては、以前よりは簡単に更新できるシステムに  
変更したことにより、本園に関する新しい情報をいち早く保護者や地域の皆さんに公開できるよう  
になった。今後ともネット社会における強力な武器としてのホームページを存分に活用して、本園の  
「存在」を広く訴えていきたい。

一方、園と保護者との連絡体制をよりスムーズなものにするため、携帯メールによる「メール配信  
システム」に関しては、刷新を図ったホームページの運用との緊密な連携を構築して、より有効な活  
用を図っていききたい。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目                                  | 取組状況  |
|---------------------------------------|---|
| 全教職員が新幼稚園教育要領を理解した<br>上で、保育の刷新を図っていく。 | 全教職員がしっかりと新幼稚園教育要領を理解し、<br>個々のクラスにおいて、画一的な「保育観」に捉われ<br>ることなく、常に理想の保育の実現に向けて模索を<br>続けている。<br>「子どもたちに対する愛情」に根差した保育という観<br>点だけは不変である |
| 教育の質の向上のため、研修の充実を図<br>る。              | 教育者たるもの、常にたゆまぬ「自己研鑽」は不可欠<br>である。<br>本園では、特に年長児の「マーチング」に代表される  |

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
|                                  | 「音楽教育」に力を入れていることは、自他共に認めるところであるが、決して慢心することなく、客観的な視点で自らの「教育・保育」を振り返ることは肝要である。そのためにも内外を問わず、積極的に研修を受講する等の充実を図っている。  |
| 家庭との連携を十分に図る。                    | 家庭との連携を図る上で、園と保護者とのコミュニケーションは最重要課題の一つである。<br>保護者とは常に連絡を緊密にとれるような態勢をとっている。<br>懇談に関しては毎学期必ず実施するようにしており、子どもたちの園での様子を細かく伝えるとともに、家庭での様子を聞き、園と保護者が協調・連携して子どもたちの成長を図るようにしている。   |
| 保護者のニーズの把握に努め、要望や意見、苦情等に適切に対処する。 | 園運営に関連するアンケート等を随時実施したり、直接多くの保護者の方との話し合いを持ち、意見交換することにより、いろいろな観点での園に対する保護者の意向が汲み取られるように努力している。<br>出された意見に対しては、たとえそれが少数意見であっても、今後の保育や園運営にプラスになると判断したものについては、積極的に取り入れるようにし、保護者と一体となって、子どもたちの成長をバックアップできる取り組みをすすめている。 |

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

現状、本園の目指すべき教育目標の実践が徐々に形となってあらわれつつある。また、「自己評価」を実施することにより、本園が拠って立つ「幼児教育の理念・理想」や理想とする本園独自の「こども像」に関して、改めて理解を深める機会を得られ、全教職員が取り組むべき課題に関する共通の認識・理解を図ることができた。

#### 5、今後取り組むべき課題

| 課 題                         | 具体的な取り組み方法   |
|-----------------------------|--|
| 「経営改善計画」にあった基本理念を着実に実施していく。 | 当該計画に関しては、今後「認定子ども園」への移行という課題が具体化してくる中において、内容の変更が生じる部分もあるが、幼稚園を存続・発展させていくための「基 |

|                         |   |
|-------------------------|---|
|                         | <p>本理念」は不変である。</p> <p>一方、「未就園児対策」については、子育てについての情報交換の場としても活用出来る「未就園児体験教室(ほうとくワンダースペース)」が地域の保護者からの関心を集めることに奏功しているが、従来から実施している「園庭開放」「プール開放」については、再度運用面・内容面について、しっかりと検討を重ねた上で、更なる充実を図っていききたい。</p>   |
| 保護者との協力・連携体制を発展・強化していく。 | <p>本園のような小規模園にあつては、園児と教職員の距離が非常に近く、家庭的で温かい、「アットホーム」な人間関係がスムーズに構築できるという非常に大きなメリットがあり、保護者からも評価をいただいている。</p> <p>幼児は様々な「楽しい」行事を通して、四季を感じ、自然と触れ合い、友だち同士の絆を深めていくものである。</p> <p>そこで保護者の方々にはお手伝い等を含めて積極的に園の行事に関わっていただき、子どもたちの喜ぶ姿を肌で感じ取るだけでなく、わが子も他の子ども達との関わりの中でこそ成長していくものであるということを実感・認識していただきたいと考える。</p> |
| 情報公開の方法と広報活動            | <p>現在園便りや参観、懇談等を通して保護者に対する情報公開をすすめているところであるが、園内部に止まらず、地域の保護者の方々にも本園をより良く知っていただくために、ホームページ等の更なる積極的活用を図っていききたい。</p>   |

## 6、財務状況

法人及び施設の経営状況については、監事・公認会計士により適正に運営されていると認められている。